



南浦和中だより



第 11 号
 平成30年 2 月 28 日(水)
 さいたま市立南浦和中学校
 さいたま市南区辻 6-1-33
 TEL 048-863-0753
 さわやか相談室 直通
 TEL 048-837-5909

《学校教育目標》日に新た 心豊かに たくましく



「人間万事塞翁が馬」

校長 益子 慶次

三寒四温、少しずつ太陽の光に力強さが増してきています。いよいよ卒業・進級を迎える季節となりました。

ピョンチャン冬季五輪で、怪我からの復活で金メダルをとった羽生結弦選手は、「幸いにも、3ヶ月間滑ることができなくて、滑ることが楽しかった」とコメントしています。怪我をして滑れないのに「幸いにも」と表現しているすごさ。また、「私一人では越えられないような壁もたくさんあった。みんなの支えがあって私という人間ができた」と感謝の気持ちを表現したスピードスケート女子500m金メダルの小平奈緒選手。笑顔と涙で銅メダルをとった女子カーリングチーム。多くの選手の頑張り、そして裏のドラマを見、味わうことができ、毎日目頭が熱くなりました。本当に夢と勇気と感動をありがとうという気持ちです。

3年生の受験においてはもとより、1・2年生も多かれ少なかれ、今までにピンチあるいはチャンスと思われる場面を経験していると思います。そんなとき、考え方ひとつでピンチをチャンスに変えることもできますし、逆にチャンスがピンチを招くことにもなります。

中国の故事にこんなものがあります。昔、国境近くのふもとに一人の老人が住んでいました。ある日、老人が飼っていた馬が胡の国(北方の異民族)の方へ逃げ去ってしまいました。近所の人々が気の毒に思っ慰めたところ、老人は「これが福につながるかも知れません」と微笑んでいました。数ヶ月後のある日、逃げた馬が胡の国の名馬を連れて帰ってきました。近所の人がお祝いに駆けつけると、老人は「これが不幸になることだってあるのです」と言って微笑んでいます。案の定、老人の息子が名馬に乗っているうちに落馬して、太腿を骨折して足が不自由になってしまいました。人々が同情して見舞いに来ると、老人は相変わらず微笑んで、「これが幸せにならないとは限りません」と言います。一年が経って、胡の国が攻めてきて多くの若い男性は兵士としてかり出され、10人中9人が戦死するという厳しい戦いを強いられました。ところが足が不自由になっていた息子は兵士になることを免除され、九死に一生を得ることができました。これが『人間万事塞翁が馬』という話です。



このように人生には本当に大変なこともありますし、うれしいこともあります。しかし、大変だと思ったことが実はうれしいことの始まりだったり、ものすごくいいと思ったことがとんでもないことの始まりだったりということもあります。状況が変化するたびに喜んだり心配したりして落ち着かない状態になるのではなく、やるべきことを日々淡々と頑張ることが大事だということでしょう。中学生にとってのこれからの長い人生では多くの試練が待ち構えていると思いますが、悲しみに暮れている必要はありません。また、幸せも手放しに喜んでばかりいてもいけません。冷静に見極める眼力、これがこれからは求められていくのではないのでしょうか。

相田みつをさんの詩に『やれなかった やらなかった どっちかな』という言葉があります。たった一字「れ」と「ら」の違いですが、中身は全く違います。一度しかない人生、悔いを残さないように意欲的、かつ積極的に取り組んでほしいと願っています。

まだ卒業式・修了式までは期間がありますが、保護者の皆様、地域の皆様にはこの一年間、あらゆる面からご支援・ご協力いただきましてありがとうございました。心より感謝申し上げます。平成30年度も教職員一同、全力で教育活動に取り組んでまいります。よろしく願いいたします。